

看護学雑誌 第48巻 総目次

1984年1-12月

(表示は、題名：筆者名、号数、ページ数)

特集

援助のなかのずれ

- 生きられる身体と言葉——言葉の本質への考察を通して、援助のなかの“ずれ”を探る：高崎絹子，1, 27.
“ずれ”への気づきと看護のかかわり：宮崎徳子，1, 32.
主役はどちら？——精神科における日常看護場面を振り返って：西岡那美・堂知洋子，1, 37.
‘視る’ことだけでなく‘聴く’ことの大切さ——人間関係のなかで起こる“ずれ”：石橋瑞代，1, 41.
看護の臨床場面における“ずれ”——脳外科病棟の事例検討から：宮崎公子・長谷川秀子・佐藤かやの・松浦景美・佐藤ひとみ・堀内朋子，1, 45.
看護の臨床場面における“ずれ”——脳性麻痺児のADL訓練を通して：松崎康子，1, 50.
看護の臨床場面における“ずれ”——再三，同じことを訴える患者からの学び：上原文子，1, 54.

聴診器を看護の中にどうかすか

- 聴診器による病状診断：村上國男，2, 147.
常識となっている聴診器による看護診断——ロマリンダ大学病院における体験から：根本多喜子，2, 152.
一般病棟では聴診器をどう使っているか：井部俊子，2, 158.
ICU病棟では聴診器をどう看護にいかしているか：榊原守，2, 162.
聴診器による小児の観察：千葉朝子，2, 168.
訪問看護活動の中で聴診器を考える：新津ふみ子，2, 173.

‘援助’と‘看護’の間——独り善がりな看護ケアからの脱皮を

- 独り善がりな看護ケアの構造——その克服への私案：川島みどり，3, 267.
ケアが看護になる時：金井一薫，3, 273.
患者の日常性の中から看護を引き出そう：近森芙美子，3, 280.
精神科における独り善がりな看護ケア：柴田恭亮，3, 286.
対象のニーズに即した看護とは：中尾アヤコ，3, 293.
視覚を失った患者とのかかわり：北山悦子・野村貴美子

・森川珠美，3, 302.

- 独り善がりな看護ケアからの脱皮——学生の学習過程を明らかにする中で：浅川明子，3, 310.
学生の行動にみる看護のマイナス因子：松村悠子，3, 315.

糖尿病患者の生活ケア

- 座談会／患者から学ぶ生活ケア：池田義雄・有馬忠良・有馬清子・沼田忠孝・高井久子，4, 387.
生活ケアの視点からみた糖尿病患者の指導——生活全体のケアのあり方と看護婦のかかわり：徳野陽子，4, 399.
生活ケアの視点からみた食事指導：中村丁次，4, 406.
実践レポート／わかりやすい指導を目指して——帯広市・斎藤医院における地域医療活動の展開：斎藤登，4, 411.
実践レポート／全職種参加による糖尿病患者のケア：佐藤桂子・伊藤房代・福土恵子・中山則子・服部秀子・長崎邦子・栄松まさ子・三堀千鶴子・平尾紘一，4, 418.
実践レポート／若年糖尿病患者のサンデー外来：豊田隆謙・猪野康子・佐瀬敏子，4, 425.
実践レポート／甲府共立病院における糖尿病ケアの実践：甲府共立病院糖尿病グループ，4, 431.
資料／セルフケアに役立つ用具・機器：井出幸子・山田治男・鈴木和枝・斎藤茂・阪本要一，4, 436.

プライマリ・ナースは日本に根づくか

- 対談／大変魅力あるシステムとしてのプライマリ・ナースング：吉武香代子・田島香代子，5, 507.
日本におけるプライマリ・ナースングの可能性——看護の周辺の変化から考える：石野育子，5, 518.
子供を見つめる目の深まり——脳性麻痺の子供たちに、質のいい看護をしたいとの願いをこめて：田口ヨウ子，5, 525.

退院時サマリーをどう書くか——看護の質と継続性を高めるために

- 退院時サマリーと看護添え書きを通して看護の継続性を考える：大田すみ子，6, 627.
情報伝達手段としてサマリーの活用を考える——病棟から訪問看護室への継続看護とフィードバック：木下由

美子, 6, 631.
看護記録としての看護要約: 白銀恵子・陸田由美・山崎弘江, 6, 637.
退院要約の再検討を試みて——看護の向上を目指した取り組み: 高畑貞子・高島美佐子・梶野桂子・山岡恵美子, 6, 642.
看護サマリーと看護の継続性——看護連絡協議会の活動を通して: 久保智子, 6, 649.
リハビリテーション看護の退院時サマリー: 諸伏悦子・近千恵子・中家百合香, 6, 655.
退院時サマリ－の活用を考える——心筋梗塞患者のサマリーを中心として: 上泉和子・山根牧子, 6, 663.
‘評価’を伴った看護サマリーを書くために——看護情報委員会での事例検討から: 田島香代子・山本匡子, 6, 670.

乳がん闘う——治療・再建・看護+ボランティア活動
乳がん治療の現状と将来: 西尾剛毅, 7, 747.
乳房再建とその意義: 酒井成身, 7, 754.
乳がん患者への看護: 松本美由紀, 7, 760.
あの時こんなことが知りたかった——乳がん体験者の質問に答えて: 牧野永城・吉井良子, 7, 765.
乳がん患者へのボランティア活動——乳がん体験者の会“あけぼの会”のボランティア活動の実際から: ワット隆子, 7, 774.
乳房喪失の悲しみを乗り越えて——乳房再建体験者の手記: 鈴木和子, 7, 783.
資料/術後患者に伝えてほしい5つの情報: 本誌編集室, 7, 786.
カラーグラフ/乳房再建の実際: 酒井成身, 7, 728.

リハビリテーションとしてのストーマケア
ストーマケアにリハビリテーションの思想を: 田村泰三, 8, 867.
ストーマを受容するということ: 門根道枝, 8, 871.
ストーマ造設患者の手術前における受容過程と看護: 金山弘代・片山徳子・藤原順子, 8, 877.
ストーマ局所の術後ケア——セルフケアに向けての援助: 阪本恵子, 8, 884.
ストーマ患者の術後器質的排尿障害に対するケア——セルフケアに向けての援助: 阪本恵子・福井幸子, 8, 892.
骨盤内手術患者の性機能障害の頻度とカウンセリング: 石井延久, 8, 898.
ストーマリハビリテーションに不可欠な専門外来: 徳永恵子, 8, 905.

チームワークの中のストレス——チームを有効に機能させるために
ICUにおける看護婦のストレス因子——Nurses Stress Factor in the Intensive Care Unit: Loucine M.D. Huckabay, Betty Jagla, 訳=常葉広美・上泉和子・遠藤総子・沖田純子・桜井ますみ・駒寿和代・大森里子・浦中貞子, 9,

987.
燃えつき症候群に陥った看護婦の傾向分析から: 稲岡文昭, 9, 993.
臨床ナースのストレスを分析する: 井部俊子, 9, 999.
チームは機能しているか?——Dose the team work?: Susan Ritter, 看護学雑誌編集室訳, 9, 1006.
主体的な看護実践を目指すチームづくり: 西元勝子, 9, 1012.
臨床実習指導におけるチーム・ダイナミクス: 石川操, 9, 1020.
“ナース”“コード・ブルー”にみるアメリカ合衆国のナースたちが感じているストレス: 中島みち, 9, 1024.

呆けの老人と家族が求める地域看護——呆け老人をかかえる家族の会・千葉支部の活動を通して
呆けの老人と家族が求める地域看護: 中島紀恵子, 10, 1107.
家族がしなければならないこと, 家族ではできないこと——介護者として10年, ボランティアとして3年, 呆け老人とかわかってきた中から: 永島光枝, 10, 1115.
体験レポート/勤めを辞めて始まった歩き回る姑との日々: 満田禎子, 10, 1121.
体験レポート/妻を介護する夫の実践的介護論: 本木一輝, 10, 1124.
体験レポート/呆けてゆく母を養母とともに看取って: 小牧登喜子, 10, 1127.
発病の初期に家族が期待する援助者の役割: 工藤禎子・北川公子・赤池孝子・松原朋子・味酒利恵, 10, 1131.
家族の学び, 看護者の学び, そのダイナミクス: 塚田和子, 10, 1137.
家族の力と援助システムのあり方——Y氏の発病から死までの援助を通して考える: 永田久美子, 10, 1145.
急性期における訪問看護の有効性と限界: 小谷英子, 10, 1152.

褥創のケア——戻るべき看護の原点
インタビュー/褥創のケアに看護の原型をみる: 南裕子, 11, 1227.
基本的看護が重要な老人の褥創ケア: 大淵律子・巻田ふき・賀集竹子, 11, 1231.
重度の褥創を持った老人への看護: 松村京子・相川富士子, 11, 1240.
体位変換ができない術後患者の褥創予防: 榊原守, 11, 1244.
癌末期患者の褥創ケアから問われたもの: 中尾洋子, 11, 1250.
治療困難な脊髄損傷患者の褥創へのケア: 秋元美知子・佐野千恵子・塚田セイ子・篠原信子, 11, 1255.
訪問看護の中での褥創のケア: 菅原恵子, 11, 1261.
褥創実態調査/全日本民医連加盟病院・診療所を対象とした調査: 太田登美子・雨宮清子・三橋淳子・藤原美奈子・新垣輝子, 11, 1267.

末期肺癌患者とのかかわり方を考える

肺癌の急増原因とその予防：平山雄，12，1347.

肺癌の病理と治療：加藤治文・西宮克明・野口正之・早田義博，12，1354.

患者の死への過程に看護婦はどれだけ参画できるか——

肺癌を告知され最後まで揺れ動いた患者への看護から：石井美枝子・丸山文代・平田文子，12，1361.

肺癌の父親を見守った2年間：南部洋子，12，1366.

強い呼吸困難を訴え安楽を求める高齢患者とのかかわりを振り返って：菊地千代美・下舞ひとみ・濱地範子・阿部智聡・藤井昌子，12，1373.

放射線治療で間質性肺炎を併発した患者への看護：飯嶋かつ・島和子，12，1378.

手術後再発し身体的苦痛を伴った患者とのかかわり：井口裕美子・高波さよ子・田野裕子・島田弥紀子・八木沼正子・菊地妙子・武田弘子・飯田美智子，12，1383.

特別論稿

シンポジウム／変貌する療養所の中で看護が担い続けていくもの：佐藤和佳子・小川芳・内田和代・山口美穂子・松田歌子・外口玉子，5，533.

鼎談／癌で逝った夫との最後の日々——国立がんセンターでの付き添いの体験から：小藪サトエ・丹生谷洋子・芦刈妙子，8，910.

精神科看護者の再生を——報徳会宇都宮病院事件に思う：鈴木和美，9，1030.

看護する者の「老い」へのまなざし——O氏への援助を通して老人看護を考える：岡部恵子，10，1156.

鼎談／いま看護士は——男性ナースの生活と意見：池田明義・鷹井清吉・藤原利明，12，1389.

ベッドサイドの看護

在宅で死を迎えたN氏とのかかわりを通して学んだこと：後藤陽子，1，58.

アンケート調査による転送先への申し送り事項の検討：原千鶴・竹花敬子・池田健・熊谷春美・内山初子，1，63.

CCUにおける患者の精神症状——不安とせん妄を中心に：上泉和子・大森里子，2，179.

CCUにおける急性心筋梗塞症患者の精神症状の検討：浜崎ひとみ・奥田淳子・西征子・中村久子・安原実千代・斉藤貞子・住吉徹哉・平盛勝彦・吉田連・稲岡長，2，188.

心筋梗塞症患者の自己管理能力を高めるための指導を試みて：大川智恵子・渡会丹和子，2，195.

性的言動を通して自分の気持ちを訴える患者へのアプローチ：小森久美，5，551.

手術を前にした患者とのかかわり——表面的なかかわりで終わってしまった看護場面の考察から：宮尾久子・坂本久代，7，791.

脳動脈硬化性痴呆患者の看護——食事・排泄の習慣化への援助：中島富士子・上谷喜代美・荒井洋子・高島健・武部和子，7，795.

疼痛点数表を使用した癌末期患者の痛みへの援助：平松京子，8，918.

血友病患者・家族のサマーキャンプを実施して——自己教育テストの結果から看護の役割を検討する：中淑子・新垣満子・石田典子・町田祥子，11，1273.

学生の広場

精神科実習におけるレクリエーションの意義：下村幸子・五十嵐弘美・小笠原由希子・北原圭子・栗田淑恵・佐藤玲子・中里友子・手塚郁子・藤明朱美，1，74.

患者のその人らしさにふれて——せん妄状態患者とのかかわりを再構成して：鈴木優子，5，554.

ホスピスと私の願い：山村伊都子，9，1036.

研究と報告

冠動脈バイパス手術を受ける患者の心理的反応：小田宏子，1，68.

医療チームにおけるソーシャルワーカーの役割——自己管理の困難な糖尿病患者への援助を通して：松本佳子，6，680.

高カロリー輸液における看護管理の一考察：古庄三季・佐藤展子・野田種子，10，1165.

訪問看護——私たちの実践レポート

多くの医療処置を必要とする癌末期患者の訪問看護：荻野文・恩田郁代，1，81.

地域へふれ合いの場を広げよう：細井恵美子，2，200.

脳卒中後遺症患者の在宅ケア：木村末子，3，321.

地域での看護の可能性を求めて——保健所・病院との連携により人間性を取り戻した事例：掛水久子・加藤淑子・重山良子，5，561.

切れ目のない医療を目指して：蔵野花枝・田甫初美・六反由紀枝，7，799.

小規模病院での訪問看護：片岡詩子，8，921.

走り出した老人保健法——地域看護の定着に取り組む神奈川県平塚保健所：野沢秀子・古畑京子，9，1040.

寄り添って生きる老夫婦を見守り続けた1年の経過から：杉山美保子，11，1280.

老人をめぐる医療活動と訪問看護の実践：当間麻子・松岡妙子，12，1397.

AGING——アメリカの老人ケア見てある記：

青木信雄

出発，そしてアメリカ各地を駆けめぐって——22都市，118か所の訪問から，1，106.

医療保険の改訂動向と老人ケア，2，226.

各地の老年科と老年科医——草創期の施設を訪ねて，3，346.

センター方式の老人ケアの現況——施設を拠点に広がる地域ケア，4，466.

供給システムの整備すすむ——退役軍人病院と一般病院での老人ケアへの取り組み，5，586.

地域ケアへの潮流——老人医療センター，病院，地域での取り組み，6，706.

ナーシング・ホームでの看護ケア〔1〕——ワシントン、デトロイト、ダラスにて，7,826.

ナーシング・ホームでの看護ケア〔2〕——サンフランシスコ，オクラホマ・シティー，8,956.

ナーシング・ホームでの看護ケア〔3〕——まとめ，日本とアメリカの看護ケアはどこがどう違うのか，9,1066.

クリニックに進出するナースたち——アン・アーバー，ダラス，10,1186.

在宅ホスピスを巡って——ダラス，ナヤック，サンフランシスコ，11,1306.

痴呆への取り組み——アン・アーバー，コスタ・メサ，シカゴ，12,1426.

選ばれた母親——障害のある我が子と生きて： 大和田とき子

待ち望んでいた男の子の誕生，1,86.

かすかな希望にすがりながら，2,206.

チョロチョロとオシッコが出た，3,326.

辰吾の笑顔は天使の笑顔，4,446.

つらいのは私ばかりではないでしょう，5,566.

「しんどくん，おうたやおもちゃであそぼうね」，6,686.

辰吾のお姉ちゃん「加菜子」，7,806.

世の中の楽しいことを教えてあげたい，8,926.

辰吾の甘いいにおいを捜しました，9,1046.

我が家のハイジとベーター，10,1166.

「しんど君が手をばあっとひろげて『おねえちゃん』つてくるの」，11,1286.

私たちは前を向いて歩く，12,1406.

脳死と植物状態をめぐる諸問題：福岡誠之

死の判定，1,93.

脳死〔1〕，2,213.

脳死〔2〕，3,333.

植物状態，4,453.

糖尿病Q&A

インスリン注射療法：池田義雄・森三枝子，1,97.

血糖の自己測定——指導の実際：池田義雄・緒方静子，2,217.

日本糖尿病協会の活動：池田義雄・緒方静子，3,337.

行動医学：篠田知璋

行動医学と習慣，1,89.

治療のための行動医学的アプローチ，2,209.

チーム医療の必要性，3,329.

チーム医療におけるカンファレンスの重要性，4,449.

バイオエシックス・セミナー：木村利人

バイオエシックスの視座，1,101.

ブリーズ・レット・ミー・ダイ，2,221.

赤ちゃんの生きる権利，3,341.

〈自然な生〉の終わり，4,461.

共に生きる試み，5,581.

バイオエシックス委員会，6,701.

患者はパートナー，7,821.

体外受精と代理母，8,941.

遺伝子治療の意味，9,1061.

家族計画のルーツと展望，11,1301.

職業としての看護，12,1421.

リハビリテーションQ&A

リハビリテーションはなぜ進展しないのか：荻島秀男・渋谷美枝・近藤光子・星川仲子，4,457.

〈障害の受容〉とはどういうことか：荻島秀男・渋谷美枝・近藤光子・星川仲子，5,577.

老人を寝たきりにさせないために：荻島秀男・近藤光子，6,697.

ばけ老人とのつき合い方：荻島秀男・近藤光子，7,817.

老人医療と老人保健法：荻島秀男・近藤光子，8,937.

障害者の受容と援助者の役割：荻島秀男・渋谷美枝，9,1057.

チームワークの確立のために：荻島秀男・渋谷美枝，10,1177.

継続看護のすすめ方：荻島秀男・渋谷美枝，11,1297.

子供の自立と親の役割：荻島秀男・星川仲子，12,1417.

痛みの臨床：中島美知子

痛みの考え方の歴史，5,569.

痛みの治療の歴史〔1〕——急性痛克服に向かって，6,689.

痛みの治療の歴史〔2〕——慢性痛への挑戦，7,809.

痛みとは何か，8,929.

痛みの測定，9,1049.

痛みの生理学，10,1169.

痛みの心理学〔1〕，11,1289.

痛みの心理学〔2〕，12,1409.

老人ホームの訓練室から——極楽寺山通信： 三好春樹

〈老い〉は自然過程にすぎない，5,573.

ベッドの高さの個別化に取り組んで，6,693.

老人にとっての〈本当の生活〉とは，7,813.

Nさんにとっての〈ロシア〉——隠喩としての老人の言動，8,933.

老人たちの内的世界——何が〈自然〉で〈正常〉なのか，9,1053.

老人観への挑戦——〈年だから〉仕方がないのか，10,1173.

生活の場から専門性を問い直す，11,1293.

個人・家族・社会——関係の世界から見た〈寝たきり〉，12,1413.

人工臓器——最先端の技術を探る

人工腎臓，1,4.

人工膀胱，2,124.

人工肝臓補助装置，3,244.

人工血液, 4, 364.
人工血管, 5, 484.
人工関節, 6, 604.
一時的な人工材料による膀胱の再建, 7, 724.
人工ペースメーカー, 8, 844.
人工弁, 9, 964.
人工心臓, 10, 1084.
人工心臓, 11, 1204.
人工臓器の将来——阿久津哲造・国立循環器病センター
研究所副所長に聞く, 12, 1324.

ナースング・ダイアグノーシス: ナースング滋賀 '84

理論で実際に使ってこそ意味があるのですね, 1, 10.
ん?“認知-認識”?日本のナースにはなじみのない言葉,
2, 130.
Who am I? 難しいけど, いつでも問い続けなければなら
ないこと, 3, 250.
病気になる, 自分の周りにはまるで知らない世界に変わ
ってしまうのです, 4, 370.
もし『ザ・レイプ』(落合恵子著)の被害者がクライエ
ントだったら, 5, 490.
遙かなる「フォワイエ」(foyer)を求めて, 6, 610.
ひとはバンだけでは生きられない, 患者だってバンだけ
では……, 7, 738.
座談会/なぜ, いま, ナースング・ダイアグノーシスな
のか?, 8, 850.
座談会/ナースング・ダイアグノーシスをするのには日
本のナースは何が必要?, 9, 970.
‘責任’と‘主張’がないと, ナースング・ダイアグノーシ
スするのはむずかしい, 10, 1090.
ナースング・ダイアグノーシスを考えながら, いつも気
になっていたこと, それは……, 11, 1210.
グランド・フィナーレ——ありがとう, たくさんのおた
ち, 12, 1330.

CHECK IT UP —— 日常ケアを見直そう: 看護ケア再検討グループ

注射〔3〕——注射ケアへの専門的なかわりとは, 1,
12.
ディスポ製品と看護, 2, 132.
消毒〔1〕——清潔の観念について, 3, 252.
消毒〔2〕——院内感染防止に果たす看護婦の役割, 4,
372.
付き添い〔1〕——付き添い問題を通して看護の専門性
を考える, 5, 492.
付き添い〔2〕——依存ではなく正しい協調関係を, 6,
612.
申し送り〔1〕——申し送りは神聖な儀式? 申し送り
の意義と実態, 7, 740.
申し送り〔2〕——こんな申し送りがされていれば, 8,
852.
安静〔1〕強制される安静——つらい思いをするのは患
者なのだ, 9, 972.

安静〔2〕——安静の強制から患者を解き放つ鍵は看護
婦が握っている, 10, 1092.
面会は許可してあげるものなのか?——患者や家族にと
っての面会の意義を考え直してみよう, 11, 1212.
〔痛み〕他人の痛みはわからない?!——痛みを無条件で
受容することの難しさ, 12, 1332.

インフォメーション—— 新しいナースングケアのために

コーピング:近藤房恵, 1, 15.
ゲシュタルト療法:深沢道子, 2, 143.
バイオフィードバック療法:渡辺克己, 3, 263.
被虐待児症候群:池田由子, 4, 383.
Moyamoya 病:鈴木二郎, 5, 503.
桶谷式乳房治療手技:小林美智子, 6, 623.
乳児ビタミンK欠乏性出血症:吉岡慶一郎, 7, 743.
リュープゼリー:石浜淳美, 8, 863.
癌のミサイル療法:小棚木均・高橋俊雄, 9, 983.
人工流産剤:松山栄吉, 10, 1103.
病院図書室:足立純子, 11, 1223.
経皮的経管式冠動脈形成術(PTCA):清水陽一, 12,
1343.

NURSES' VIEW

治療志向的看護援助の限界:山本桂子, 1, 25.
精神科で過ごした8年の体験を通して今……:後藤陽子,
2, 145.
患者からのメッセージ:梅津キミ, 3, 265.
患者の‘……したくない’気持ちを大切に——慢性分
裂病者への働きかけ:東栄機, 4, 385.
自分の持てるもののすべてを手段にして看護すること:
小木富子, 5, 505.
患者さんにほっとする間を:久守和子, 6, 625.
寝ている患者の目の前で物を渡す:小川圭子, 7, 745.
看護の歴史に明日をみる:亀山美知子, 8, 865.
なぜ交流分析は看護に必要なか:池淵保子, 9, 985.
感染防止のため看護婦として試みていること:飯嶋美代
子, 10, 1105.
K君の前で2度流した涙:山中敬子, 11, 1225.
患者さんから椅子を投げつけられて:野方俊郎, 12,
1345.

グラフ

人間らしい“情感の共有”を手探りしながら——佐賀県・
いぬお病院にみる開放医療の実践, 1, 16.
厳寒の雪の中, 患者と看護婦の歓声がわきあがる——北
海道向陽ヶ丘病院の雪上運動会, 2, 136.
生き生きとした‘生活の場’としての老人ホームを目指し
て——特別養護老人ホーム“清鈴園”に見る個別ケアの
思想, 3, 256.
「気長に病氣と付き合う法」教えます——チームで慢性
疾患患者管理に取り組む神奈川みなみ医療生協・衣笠
診療所, 4, 376.
医療者と患者と一緒に治療に向かう——バリント方式に

よる治療を試みる小倉病院心療内科, 5, 496.
見事に動線の確保された救急医療——「できる限り患者のそばで」のケアを目指す都立広尾病院, 6, 616.
ある日突然良くなることを期待しつつケアを続ける——自動車事故対策センター千葉療養センターでの看護, 8, 856.
PPC 方式によるプライマリ・ナーシングを目指して——済生会横浜市南部病院にみる地域ぐるみの看護, 9, 976.
東京都の社会福祉推進の拠点——東京都社会福祉総合センター, 10, 1096.
残された時, 心豊かに過ごしていただきたい——オリブ山病院でのホスピス活動, 11, 1216.
ひとりひとりに行きわたる看護を求めて——結核患者看護から循環器病患者看護への変換の中で, 12, 1336.

教育婦長

川島みどりさん——みさと健和病院, 1, 1.
田中文字さん——神戸大学医学部付属病院, 2, 121.
戎谷イツさん——東北公済病院, 3, 241.
坂東芳子さん——国立七尾病院副総婦長, 4, 361.
安藤邦子さん——大阪大学医学部付属病院, 5, 481.
高田紘子さん——国立療養所再春荘, 6, 601.
小木富子さん——福井県立病院看護部次長, 7, 721.
山岸節子さん——山梨医科大学付属病院内科病棟婦長・教育委員会委員長, 8, 841.
西村文字さん——富山県立中央病院, 9, 961.
斎藤正子さん——亀田総合病院, 10, 1081.
笹野和子さん——長崎市立市民病院看護副部長, 11, 1201.
雨宮多喜子さん——諏訪赤十字病院看護副部長, 12, 1321.

ちょっと一言——総婦長のつぶやき

今なお, 学びつつ……: 細井恵美子, 1, 88.
‘見える’—‘見られる’関係: 島田妙子, 2, 208.
私の健康法: 須谷照子, 3, 325.
禅林にお供して: 石井松代, 4, 445.
幼児の目: 内田卿子, 5, 565.
人との出会いを大切に: 出垣冴子, 6, 685.
芸の道と専門職: 寺島敏子, 7, 805.
私の巴里祭: 嶋崎佐智子, 8, 925.
山が教えてくれている: 田河内ツル子, 9, 1045.
女性の意識: 林治子, 10, 1181.
小さな島に魅せられて: 木村千枝子, 11, 1285.
水に学ぶ: 伊藤すみ, 12, 1405.

プロフィール

〈北村静江〉総婦長からスタッフナースへ——臨床で動き回っているのが好きで総婦長のガラじゃないんです, 1, 105.
〈大石好子〉聖隷ホスピスの訪問看護婦——亡くなる方には, よく頑張りましたね, という気持ちになります, 2, 225.

〈山崎美佐子〉福岡バリントグループで活躍——バリントは医療者を育てるための方法でもあるんですね, 3, 345.
〈本田タツ子〉趣味を看護に生かす——詩吟, 民謡, 三味線と趣味は私の体に蓄えた貯金です, 4, 465.
〈山上富代〉近所の子供たちと毎朝走る——なんとかして子供を病気から守ってあげたい, 5, 585.
〈廣田義衛〉退任とともに記念誌が出される——勉強してほしい, 患者を見てほしい, それが私の教育方針です, 6, 705.
〈徳永恵子〉ストーマケア専門外来看護婦——漏れたり, 臭ったりするような経験を絶対させてはいけません, 7, 825.
〈秋山智子〉神経内科病棟で働く看護士——患者が求めているのは男でも女でもない人間なんですね, 8, 945.
〈真玉橋ノブ〉戦後の沖縄看護を創り上げる——学生の数だけ教科書が手に入った時はうれしかったですね, 9, 1065.
〈平良益美〉健康教育部で患者指導——患者さんは, こちらの話すことをとても熱心に聞いてくれるんです, 10, 1185.
〈知念芳子〉沖縄のらい看護とともに歩む——患者さんと心が通じ合えたから, らい看護を続けられたのでしょうね, 11, 1305.
〈石森携子〉淀川キリスと教病院ホスピス病棟婦長——最後にその人らしさが出せるようなケアがしたい, 12, 1425.

BOOK REVIEW

プライマリ・ナーシング—新しい看護方式の展開(G. Marrow ほか著, 松本光子・池田一郎訳): 石川みち子, 1, 110.
看護とコミュニケーション(E.C.Hein 著, 助川尚子訳): 須谷照子, 1, 111.
新刊紹介/「癌看護基準Ⅱ—手術室看護」「IUCの看護技術第2版」, 1, 112.
ヒューマンスティックナーシング(J.G.Paterson,L.T.Zderad 著, 長谷川浩・川野雅資訳): 八谷量子, 2, 230.
生と死を支える—ホスピス・ケアの実践(柏木哲夫著): 小松玲子, 2, 231.
新刊紹介/「わすれな草—フィリピン戦線従軍記」「南十字星」, 2, 232.
臨床体験をつなぐ事例検討—精神科看護事例検討会ゼミナール・3(外口玉子・金井一薫・宮本真巳編): 橋本きみ, 3, 350.
死の声—遺書・刑死者の手記・末期癌患者との対話より(E.S. シュナイドマン著, 白井徳満・白井幸子訳): 井山寿美子, 3, 351.
新刊紹介/「輸液を学ぶ人のために 第2版」「脳死と心臓死の間で一死の判定をめぐる」, 3, 352.
看護診断(CARLSON,CRAFT,McGUIRE 著, 日野原重明監訳): 櫻井律子, 4, 470.
胎児からの警告—危機に立つ生命環境(クリストファー・ノーウッド著, 綿貫礼子・河村宏訳): 斎藤育子,

4, 471.

新刊紹介／「母乳哺育指導マニュアル」「母乳哺育ガイドブック」, 4, 472.

看護にいかす交流分析—自分を知り, 自分を変えるために(白井幸子著): 山崎美佐子, 5, 590.

ナースに必要な診断の知識と技術 第3版(日野原重明ほか著): 片田範子, 5, 591.

新刊紹介／「真紅のバラを37本」「看護基準 第5版」, 5, 592.

看護過程=ナーシング・プロセス—アセスメント・計画立案・実施・評価(Yura, Walsh 著, 岩井郁子訳): 南裕子, 6, 710.

ホスピスを目指して一生を支えるケア(柏木哲夫著): 柿川房子, 6, 711.

新刊紹介／「近代日本看護史—1—日本赤十字社と看護婦」「派出看護婦の歴史」, 6, 712.

ナースのための統計学—データのとり方・生かし方(高木廣文著): 伊藤幸子, 7, 830.

ダウン症の子をもって(正村公宏著): 大和田とき子, 7, 831.

けっしてあきらめないで—ガンと生きる(ワット隆子著): 根岸悦子, 7, 832.

病む人のところ—看護の場所(駒松仁子著): 藤原幸江, 8, 950.

誰がために医療はある—内側からみたその夢と現実(品川信良著): 藤原美幸, 8, 951.

新刊紹介／「からだの働きと病気 第2版」「看護基礎技術必携 第4版」, 8, 952.

思春期のカルテ—保健室からのレポート(福岡恵美子著): 篠田知璋, 9, 1070.

子どもの病む世界で(日下隼人著): 稲田清美, 9, 1071.

新刊紹介／「看護研究・実践のための基本概念」「新版看護面接の理論」, 9, 1072.

精神科看護とデイ・ケア—福祉との連携をめざして(加藤政子・杉元信子著): 鈴木敦子, 10, 1190.

魂のリハビリテーション—植物人間からの生還(新井智著): 中島久恵, 10, 1191.

新刊紹介／「対人関係に学ぶ看護」「めぐり逢うべき誰かのために」, 10, 1192.

看護研究の方法とまとめ方—はじめて研究を志す人のために(土屋健三郎ほか著): 坪井良子, 11, 1310.

手のひらで知る世界(石井康子著): 槇綾子, 11, 1311.

新刊紹介／「生命尽くして—一生と死のワークショップ」「看護法令ハンドブック」, 11, 1312.

人間の死と脳幹死(Christopher Pallis 著, 植村研一ほか訳): 酒見邦子, 12, 1430.

看護カンファレンス—活気ある看護チームをめざして(川島みどり・杉野元子著): 久保智代恵, 12, 1431.

新刊紹介／「写真で見る日本近代看護の歴史—先駆者を訪ねて」「燃える髪 風にはためき」, 12, 1432.

NEWS

第14回日本看護学会成人看護分科会(神奈川)／昭和58年度日看協東海北陸地区看護研究学会, 1, 114.

第14回日本看護学会小児看護分科会／第7回全国ホームケア研究会, 1, 115.

第11回日本救急医学会総会／地域医療研究会'83, 2, 234.

第38回国立病院療養所総合医学会／第19回東京看護学セミナー公開セミナー, 2, 235.

“末期がん患者の生命の質”をシンポジウムのテーマに 第7回死の臨床研究会／昭和58年度日本看護協会九州地区看護研究学会, 3, 354.

昭和58年度日本看護協会地区看護研究学会関東甲信越地区／第3回日本看護科学学会, 3, 355.

第16回聖路加看護大学公開講座／昭和58年度日本看護協会中四国地区看護研究学会, 4, 474.

‘POSの応用とその実践’をテーマに 第6回POS研究会／第14回日本看護学会看護総合分科会, 5, 594.

昭和58年度日本看護協会近畿地区看護研究学会／公開講座 老年の心と健康—呆けを看取る, 5, 595.

看護制度改正案を採択—養成は4年制大学, 名称は看護師, 准看廃止 昭和59年度日本看護協会通常総会, 8, 954.

第8回看護を考える市民と看護婦の集い／第7回日本プライマリ・ケア学会, 9, 1074.

第10回日本看護研究学会／第15回日本看護学会看護教育分科会, 10, 1194.

第15回日本看護学会成人看護分科会(千葉)／第15回日本看護学会成人看護分科会(富山), 10, 1195.

第6回地域リハビリテーション研究会／第6回難病看護研究会, 11, 1314.

日看協主催老人看護月間シンポジウム／第15回日本看護学会成人看護分科会(長崎), 11, 1315.

第15回日本看護学会看護管理分科会／第15回日本看護学会小児看護分科会／昭和59年度日看協北海道・東北地区看護研究学会, 12, 1434.

SALON

人に何かを与えられる職業として看護を選んだが: 奥村美恵子, 1, 116.

パトロール隊: 佐藤とき, 1, 117.

不死鳥のごとく思っていた私だが: 宮ノ尾井俊子, 1, 118.

ある先輩の死: 荒川みつ子, 1, 119.

真のチームワークとは: 島谷悦子, 2, 236.

看護師の将来を考える: 秋山智, 2, 237.

働くということ: 工藤芳子, 2, 238.

老人シンポジウムに出席して: 中村浩子, 2, 239.

付き添い人‘男子禁’の怪: 田中綾子, 3, 356.

チームワークとは何か, 教えてください: 田嶋隆子, 3, 357.

心の輪をつないだ仲間たち: 篠崎きよ, 3, 358.

新生児室の暖房事故に思う: 小野ヨシエ, 3, 359.

私の体がぼろだからごめんね: 杉本澄子, 4, 475.

学生実習について一言: 河野美穂子, 4, 476.

暁の空—ある青年の死: 丸山文代, 4, 477.

子供たちの遊びについて: 濱岸利夫, 4, 478.

病棟婦長になって：菊池和子，4, 478.
ご自身の体を提供して下さったKさんへ：村上容子，4, 479.
元看護教員であった私の心のしこり：浦崎貞子，5, 596.
そんなに簡単に家族を非難できるのか：越智信子，5, 597.
プロとして自らの業務は自ら決定しよう：白松万里子，5, 598.
チームワークについて：早川和生，5, 599.
‘チームワークとは何か，教えてください’を読んで：小林綾子，5, 599.
暗たんたる病院看護の実態を目にして：松波弥生，6, 716.
病者から，もう離れては生きてゆけない：三枝広雄，6, 718.
書くということについて：中村保子，6, 719.
許せぬ宇都宮病院のランチ事件：秋山智，7, 836.
いくら辛くとも痛みとともに生きねばならぬ：河野美穂子，7, 837.
音をたてて崩れた看護教師の誇り：飯島千枝子，7, 837.
一通の奉書：佐藤吉子，7, 839.
暗闇で痛みを耐えて待つ人の心：古賀八千代，8, 956.
准看護婦問題に思う：鈴木保，8, 957.
糖尿病患者の嘆き：小林綾子，8, 958.
あまりに違う2人の看護婦：尾美静子，8, 958.
看護は本当に‘ケア’なのだろうか：早川和生，8, 959.
「暗たんたる病院看護の実態を目にして」を読んで：M. T.，9, 1076.
川崎病の娘を持って：小林綾子，9, 1076.
次女が甲状腺腫と診断されて：越智信子，9, 1077.
ぜひ交流分析に一度ふれてほしい：山道裕子，9, 1077.
まだまだ働きたい：藤田京子，9, 1078.
便利な（？）ナースコール：南波春樹，9, 1079.
体外受精に思う：小野ヨシエ，9, 1079.
看護者として人間，身を守る権利はあるはず——宇都宮病院問題を振り返って：鈴木保，10, 1198.
スーさん台風が通過して：延近久子，10, 1199.
望まれるのは看護者自身の変革——‘看護者として人間，身を守る権利はあるはず’に反論します：矢野真二，11, 1316.
病院内の樹木について：飯島美代子，11, 1318.
みんなが満足したあの日のこと：佐藤吉子，11, 1319.
白衣姿の優しさと美しさについて：千島染太郎，12, 1436.
たとえ器械で生かされたとしても生きていてほしい：今成邦子，12, 1437.
チームワークのよい援助ができるには：蛸原絹子，12, 1438.
亡くなられた看護婦さんはどんなにかくやしかったことでしょう：馬庭恭子，12, 1439.

海外だより：小林明子

St. Jude Hospital における緊急事態発生時の対応，1,

109.

アメリカ合衆国における看護婦の免許証交付制度とそれに関連した教育組織について，2, 229.
アメリカ合衆国のオープンシステムの実態，3, 349.
患者の多忙な入院生活，4, 469.
Desk Nurse [1] ——患者の著変時の責任者，5, 589.
Desk Nurse [2] ——Exchange service と病棟クラーク，6, 709.
疲れていますから，診察はあしたにしてください——“患者中心”が徹底されている病院組織，7, 709.
あなたはタバコをお吸いになりますか——“患者中心”が徹底されている病院組織 [2]，8, 949.
驚くべきディスポ製品の普及の中で——“患者中心”が徹底されている病院組織 [3]，9, 1069.
アメリカ合衆国の看護婦を取り巻く環境，10, 1189.
アメリカ合衆国の看護管理，11, 1309.
アメリカ合衆国の看護体制——〈付き添い〉のいない病院なんて××みたい？，12, 1429.

折々の花——いとしき糖尿病教室の患者たち： 佐々木一枝

散るまでは「花」，4, 473.
バラと蘭に囲まれた女王のようなTさん，5, 593.
説得，6, 713.
松，竹，梅，木瓜，びっくり草，7, 833.
第一印象はあてにならない，8, 953.
花のある男性 [1]，9, 1073.
花のある男性 [2]，10, 1193.
団子より花，11, 1313.
2週間ごとの新しい出会い，12, 1433.

TOPICS

淀川キリスト教病院ホスピス誕生——4月9日オープン，全国5000人から2億円の募金で，6, 714.
乳児死亡ゼロを達成した東京・荒川区尾久保健相談所，7, 834.
海外の雑誌から／死にゆく人々への先駆的アプローチ——シスリー・ソンドース女史と語る，8, 955.
自主企画・自主運営で6年の実績——第6回‘人間と看護を考える会’合同研修会，9, 1075.
聖隷三方原病院ホスピス病棟の3年——〈第15病棟〉から〈ホスピス病棟〉への名称の変更の意味，10, 1196.
海外の雑誌から／家族への援助：ジョン・フライ，12, 1402.
‘医療と教育に関する国際セミナー’10年の成果——医学・看護教育の刷新，プライマリ・ケアの導入，12, 1435.

アイディア

腹帯の改良を試みて：宮本由美・岡本晴枝・篠原和代・浜田泰乃・斉藤房子・岡田政子・水口艶子・武市松子，3, 353.